岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2014.9 No.142

目次／仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設　**表紙**／いわて文化ノート「10世紀前半に起こった二つの巨大噴火の痕跡」**p.2-3**／展覧会案内「新指定文化財展 2010-2014」**p.4-5**／活動レポート「仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設の設置」**p.6**／事業報告「第67回自然観察会」「第67回地質観察会」**p.7**／インフォメーション **p.8**

仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設

岩手県立博物館では、3.11東日本大震災津波で被災した資料の修復作業を続けています。2014年春、本館脇に仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設を設置しました。軽量鉄骨造2階建、建築面積115.22㎡、延べ床面積230.44㎡。1階では主に古文書、書籍等の水洗、脱塩、除菌、予備乾燥が、2階では書画をはじめとする美術品の安定化処理が行われています。また、被災資料再生の過程とその意義を広く一般に理解していただくことを目的として、資料搬出入のための通路を利用し、開館時間帯に作業施設の概要、作業の実施状況の一部を公開しています。

■いわて文化ノート

10世紀前半に起こった二つの巨大噴火の痕跡

専門学芸員　丸山 浩治（考古部門）

■巨大な自然災害が頻発した時期

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその津波によって、過去に起こった一つの地震が注目されることとなりました。平安時代の貞観（じょうがん）11年（西暦869年）に発生したとされる貞観地震です。『日本三代実録（にほんさんだいじつろく）』には、貞観11年5月の記載に「廿六日癸未　陸奥國地大震動」とあり、「城」が大きな被害を受けたとされています。この「城」とは、陸奥国府・多賀城を指すと考えられ、実際に発掘調査で建物の建て替えや瓦のふき替えがなされた痕跡が見つかっています。この地震の規模は東北地方太平洋沖地震に匹敵するものと推定されており、「1000年に一度」の巨大地震であったと考えられています。

多賀城跡では、この地震被害痕跡層の少し上位から灰白色の火山灰が見つかっています。貞観地震の40数年後に発生したとされる火山噴火の痕跡です。この噴出源は、青森・秋田県境にある十和田湖付近とされています。あまり知られていませんが、火山「十和田」は日本全国で110カ所ある活火山の１つです。

■巨大噴火を繰り返してきた「十和田」

十和田湖はカルデラであり、過去に何度も巨大な噴火を繰り返してきた東北地方有数の火山です。今から３～１万年前までの間に、２回の巨大噴火を起こしました【写真１】。いずれも「破局的噴火（はきょくてきふんか）」と形容される規模の噴火で、これにより現在の十和田湖の原形が形成されたといわれています。とくに、約１万５千年前の噴火では火砕流が盛岡付近まで到達したと考えられており、とてつもなく巨大な噴火であったことが窺い知れます。

【写真１】「十和田火山火砕流堆積層露頭」
（秋田県小坂町・町指定天然記念物）
崖全体が十和田の火砕流堆積物。中央矢印部分に軽トラックが走り、その規模が比較できる。

十和田はその後も大規模な噴火を少なくとも６回起こしており、岩手県内では主に県北地方で火山灰の堆積が確認されます。このうちの最も新しい噴火が、貞観地震から40数年後に発生した「噴火エピソードＡ」です。

■十和田の10世紀噴火 エピソードＡ

噴火エピソードＡが発生した年代は、発掘調査で出土した木材の年輪年代（木の年輪幅から生育していた年代を探る方法）や『扶桑略記（ふそうりゃくき）』という文献史料の記述から、延喜（えんぎ）15年（西暦915年）とする説が有力です（鈴木恵治1981「古代奥羽での祥瑞災異」、町田洋ほか1981「日本海を渡ってきたテフラ」など）。

この噴火は、過去2000年間に日本国内で発生した火山噴火のうち、最大級の規模であったとされています（早川由紀夫1994「日本の2000年噴火カタログ」）。大規模な火砕流が発生し（噴出源から周囲20㎞に到達したとされる）、一部は大湯川から米代川沿いに流れ下り、泥流となって能代まで広がりました。この河川沿いにあった集落は、埋没するなどして甚大な被害を受けています。当時の建物が出土した秋田県北秋田市の胡桃館（くるみだて）遺跡はその代表例で、この火山噴火による直接的な災害痕跡として著名です。「日本のポンペイ」などと形容されることもあります。近年でも、土層の崩落などによって建物が現れることがあり、未知の埋没集落はまだ存在するようです。

噴火エピソードＡでもう一つ特徴的なのは、火山灰の広がりです。通常、火山灰は偏西風の影響で給源の東に広がる傾向がありますが、このとき噴出した「十和田ａ火山灰（To-a）」は、南方約300㎞に広がり、東北一円に降り注ぎました（町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』）。やませ（山背）や台風の影響を受けたのではないか、といわれています。いずれ、このような広範囲に降下し、一帯をパックしてしまったのです。広範囲に堆積する火山灰を広域火山灰と呼びますが、十和田ａ火山灰はまさに平安時代を代表する広域火山灰です。

■岩手県内におけるTo-a降灰状況

岩手県内におけるTo-aの分布状況は、遺跡発掘調査の進展によって詳細に判明しつつあります。これによれば、北上山地以西では全域で、以東では九戸郡野田村以北で、それぞれ肉眼で確認可能な量が残存しており、以南の沿岸部では検出事例がほとんどありません。三陸地方全域に降っていた可能性は大ですが、降灰量が少なく、現代まで残らなかったものと考えられます。

一方、北上山地以西の内陸部でも降灰量は一様ではありません。たとえば、十和田に近い二戸市下斗米（しもとまい）の上台（うわだい）遺跡では、奈良時代の竪穴住居に約80㎝の厚さで堆積していました【写真２】。これが盛岡市付近の遺跡になると、厚くても数㎝程度までしか見られなくなり、大半は断続的な堆積にとどまります。給源から遠ざかれば、降下量が減り堆積層厚が

【写真２】奈良時代の竪穴住居内に堆積したTo-a
（二戸市　上台遺跡）

薄くなるのは当然です。ところが、北上市～奥州市付近になると盛岡市付近より厚く残存する例が見られるようになり、成層例も増加します。つまり、県央部より県南部の降灰量が多かったといえるのです。

このような現象が生じた背景には、地形や天候の影響が考えられます。換言すれば、自然条件によって被害度合いが左右された、ということです。

■To-aが農耕に与えた影響

広域に降り注ぎ一帯をパックしたTo-aは、田や畠などの生産域も覆い尽くしました。被災した人々は愕然としたことでしょう。火山灰は葉の表面にこびりついてなかなか落ちないため、植物は光合成が妨げられ成長が滞ります。一般的に、火山灰が2㎝降り積もると畠に植えた農作物のほとんどが枯れてしまい、稲の場合は0.5㎜で１年間の収穫が不可能になるといわれています（鎌田浩毅2007『富士山噴火』）。

To-aの場合、収量にどれほどの影響が生じたか具体的な状況はわかっていませんが、見つかった耕作域の状況から被災者がどのような行動をとったか推定することが可能です。

二戸市似鳥の大向Ⅱ遺跡では、To-aで被災した畠をほどなく復旧しようとした様子が確認されました。しかし、幾度も襲うラハール（火山泥流）の影響で結局放棄を余儀なくされたようです（能登健ほか2000「十和田a火山灰による災害と復旧」など）。

一戸町の野里上（のざとかみ）遺跡では、水はけのよい緩斜面からTo-a降下前と後の畠が見つかりました【写真３】。つまり、同じ場所で復旧を図っていたのです。他方、湿地で降下前は畠がなかった低位部に、降下後になって畠が作られていたことも

【写真３】To-a降下前後の畠作痕跡
（一戸町　野里上遺跡）
筋や斑状に白く見えるのがTo-a。

わかりました。この低位部は、To-a降下前はおそらく水田であった場所です。すなわち、火山灰堆積による水事情の変化によって耕作域が変化したと考えられる事例です（丸山浩治ほか2007『野里上遺跡発掘調査報告書』）。

このように、火山灰の堆積状況調査から、被災後の復旧の有様や土地利用の変化などを窺い知ることができます。

■もうひとつの広域火山灰「B-Tm」

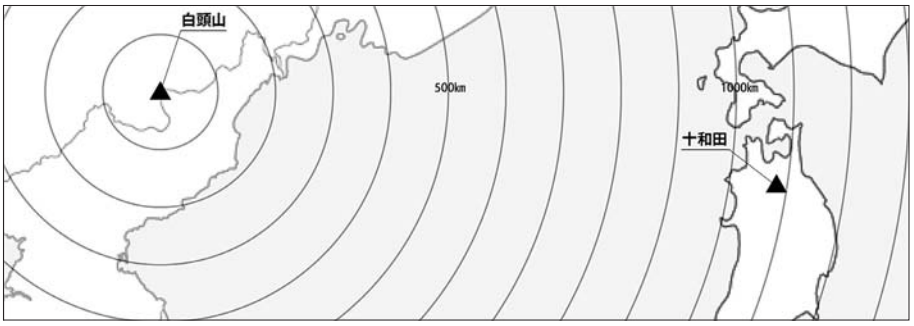
本県北部では、To-aのすぐ上位から別の火山灰が見つかることがあります。これは「白頭山（はくとうさん）―苫小牧火山灰（B-Tm）」と呼ばれる広域火山灰で、給源は中国と北朝鮮の国境付近にある白頭山です。白頭山から本県までの距離は、優に1,100㎞はあります【資料１】。日本海を渡り、はるか日本列島まで飛んできたのです。この時の噴火は、過去2000年間に発生した火山噴火のうち世界最大級の規模であったとされ（早川 前掲）、B-Tmの分布は北海道から東北地方北部にかけての広範囲で確認されています（町田・新井前掲）。

噴火した年代については諸説ありますが、いずれも10世紀第２四半期に収まるものです。十和田の噴火エピソードＡから10数～ 30数年後、東北地方北部は再び火山灰に埋もれてしまったのです。

しかし、十和田と異なり、確認される堆積物は降下火山灰のみで、その厚さは数cm以下です。よって、破壊的な被災痕跡は確認されず、この噴火イベントの影響がどの程度あったのか、謎のままです。日本列島の住民にはさほど大きな影響を与えなかったと考える向きもありますが、この規模の噴火は「火山の冬」を招き、以降数年は植物の生育に多大な影響を与えたと推定されます。当然、それは動物も含めた生態系全体に影響したでしょう。今後の防災・減災を考える上でも、当時の状況と社会の動きを詳しく知ることが必要です。

当該期に生きた人々や社会が二つの巨大噴火をどう乗り切ったのか。それに伴う物質文化の変化や社会の変容はあったのか、無かったのか。

To-aとB-Tm、二つの火山灰が介在する遺跡・遺構・遺物をつぶさに見ることで、それを解明していこうと考えています。



【資料１】白頭山の位置と日本までの距離

■テーマ展

新指定文化財展2010-2014

会期：平成26年10月4日(土)～11月24日(月・祝)　会場：特別展示室

文化庁と岩手県教育委員会では、重要な文化財を保存・活用し国民の文化的向上に資するとともに、わが国の文化の進歩に貢献することを目的として、文化財保護法や岩手県文化財保護条例に基づいた文化財の指定等を行っています。

当館では、県内外の皆様にこれら貴重な文化財をご紹介するため、数年おきに「新指定文化財展」を開催しています。今回の展覧会で対象となる物件は、平成22年４月から平成26年６月にかけて国もしくは県の指定等を受けた40件の文化財です【表１】。本稿ではそのいくつかをご紹介します。

■有形文化財

◇建造物

(国)重要文化財　旧朴舘家住宅

旧朴舘家住宅【写真１】は、一戸町のほぼ中央、旧奥州街道沿いの山あいに所在します。平成２年に県指定となりましたが、今回重要文化財に指定されたのは、主屋、土蔵とその敷地です。

主屋は文久２年（1862）ころ、土蔵は明治16年（1883）ころの建築と伝えられます。主屋は、桁行29.9m、梁間16.4mと大規模で、ダイドコ周囲に八寸角の柱を配し、ジョイやシタザシキに二尺を超す成の差物を架け渡すなど軸部構成も重厚です。広大な内部空間を持つ大規模民家として価値が高く、また式台や３室の座敷といった接客空間を備えるとともに、内厩のある広い土間をもつなど、南部藩領における上層民家の特徴をよく示しており、重要です。

【写真１】旧朴舘家住宅
（提供：一戸町教育委員会）

(国)登録有形文化財　旧釜石鉱山事務所

旧釜石鉱山事務所は、昭和27年（1952）から平成20年（2008）まで日鉄鉱業株式会社釜石鉱業所、釜石鉱山株式会社の事務所として使用された建物です。釜石鉱山は、太平洋戦争後の釜石製鐵所の復興とともに盛業を呈しました。新たな鉄鉱床のほか、銅鉱床も発見され、日本有数の銅鉱山としても発展しました。

平成21年に釜石市が譲渡を受け、内部に昭和30年代の事務所を再現するなど【写真２】、活用を図っています。
（※東日本大震災の影響により閉館中）

【写真２】旧釜石鉱山事務所　内部
昭和30年代の所内を再現した様子

国指定		岩手県指定	
重要文化財	岩手県平泉遺跡群(柳之御所遺跡)出土品(岩手県)	有形文化財	徳丹城跡出土品(矢巾町)
重要文化財	岩手県平泉遺跡群出土品(平泉町)	有形文化財	木造六観音立像(葛巻町)
重要文化財	旧高橋家住宅(奥州市)	有形文化財	木造青面金剛立像 二童子・三猿・台座共 附 寿牌(二戸市)
重要文化財	旧朴舘家住宅(一戸町)	有形文化財	木造十一面観音立像 附胎内仏・木造僧形立像(釜石市)
史跡	胆沢城跡 追加指定(奥州市)	有形文化財	南部家伝来提帯(盛岡市)
史跡	鳥海柵跡(金ケ崎町)	有形文化財	南部家伝来具足下着(盛岡市)
史跡	御所野遺跡 追加指定(一戸町)	有形文化財	長胴太鼓(二戸市)
名勝	浄土ヶ浜(宮古市)	有形文化財	盛岡藩雑書 追加指定(盛岡市)
名勝	おくのほそ道の風景地　金鶏山・高館(平泉町)	有形文化財	軽邑耕作鈔及び遺言(軽米町)
天然記念物	平糠のイヌブナ自然林(一戸町)	有形文化財	豊吉之墓(一関市)
国選定		有形文化財	大槻家旧蔵板木(一関市)
重要文化的景観	遠野 荒川高原牧場 土淵山口集落 追加選定・名称変更(遠野市)	史跡	湯舟沢環状列石(滝沢市)
国登録		天然記念物	花巻矢沢地区のゼニタナゴ生息地(花巻市)
記念物	盛合氏庭園(宮古市)	有形民俗文化財	姉体庚申塔(寛永十二年銘)(奥州市)
記念物	旧南部氏別邸庭園(盛岡市)	無形民俗文化財	鵜鳥神楽(普代村)
有形文化財	旧釜石鉱山事務所(釜石市)	無形民俗文化財	篠木神楽(滝沢市)
有形文化財	旧南部家別邸主屋(盛岡市)	無形民俗文化財	さんさ踊り(盛岡市／大宮、黒川、山岸、三本柳)
国選択		無形民俗文化財	一戸の山伏神楽(一戸町／高屋敷神楽、中山神楽)
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	石鳩岡神楽・土沢神楽(花巻市)	無形民俗文化財	布佐神楽(一関市)
国指定・選定・登録・選択 16件、岩手県指定 24件　計40件		無形民俗文化財	門中組虎舞(大船渡市)
		無形民俗文化財	南部藩壽松院年行司支配太神楽(釜石市)
		無形民俗文化財	駒木鹿子踊り(遠野市)
		無形民俗文化財	長野獅子踊り(遠野市)
		無形民俗文化財	板澤しし踊り(遠野市)

【表１】新指定文化財展2010-2014　対象物件（（　）内は所在地）

◇考古資料

(国)重要文化財

岩手県平泉遺跡群出土品

奥州藤原氏の拠点、平泉には12世紀の遺跡が多数存在しますが、このうち柳之御所遺跡出土品942点と、志羅山遺跡、泉屋遺跡、伽羅之御所跡ほか22遺跡出土品1262点がそれぞれ国重要文化財に指定されました。

【写真３】は、志羅山遺跡の池跡から出した鉄轡です。ハミの両端に付ける鏡板が円形を呈する鏡轡という形態で、この鏡板を掘りくぼめて銅をはめ込む銅象嵌の技法で鴛鴦（オシドリ）の模様が表現されていることから「鴛鴦文鏡轡」と呼ばれています。

【写真３】岩手県平泉遺跡群出土品
志羅山遺跡出土　鴛鴦文鏡轡　平泉町蔵
（提供：(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

◇工芸品

(県)有形文化財　南部家伝来具足下着

【写真４】は、具足の下に着用する衣装で、盛岡南部家伝来の品です。上等の生地や材料をふんだんに使い、丁寧に作られています。表地と裏地の間に亀甲形の革板や鎖を挟み込むことで、防護力を高めています。このような防護力の高い大名家伝来の具足下着は現存例が全国的に見ても少なく、貴重です。

【写真４】南部家伝来具足下着
（金茶繻子地亀甲革入具足下着）
もりおか歴史文化館蔵

■記念物・史跡

(国)史跡　鳥海柵跡

金ケ崎町鳥海柵跡【写真５】は、平安時代後期に奥六郡を治めていた安倍氏の拠点施設です。前九年合戦の顛末を描いた軍記物語『陸奥話記』には安倍氏の柵が12カ所登場しますが、鳥海柵はそのうちの一つです。発掘調査によって11世紀の建物跡や遺物が多数確認されました。

安倍氏の柵は極めて不明な部分が多く、鳥海柵が唯一、居住を伴う拠点施設と確定された遺跡です。このため、平成25年に国史跡に指定されました。

【写真５】鳥海柵跡
伝二の丸（右）・三の丸（左）と第三沢（中央）

■記念物・名勝

(国)名勝　浄土ヶ浜

浄土ヶ浜は、宮古市の臼木半島東端に位置します。臼木半島は、新生代古第三紀始新世に噴出した流紋岩でできており、北に位置する「蛸の浜」北岸の宮古層群羅賀層（前期白亜紀）の黒みのある礫岩とは対照的に、浄土ヶ浜流紋岩は美しい乳白色を呈しています【写真６】。この白い岩塊と、青い海面、半島に生育するアカマツなどの緑が造り出す風致景観が、近世の紀行文や地誌に紹介され、宮沢賢治も訪れるなど、三陸地方沿岸の名勝地として広く知られるようになりました。

【写真６】浄土ヶ浜
正面に見える乳白色の岩石が流紋岩

■記念物・天然記念物

(県)天然記念物

花巻矢沢地区のゼニタナゴ生息地

ゼニタナゴ【写真７】は日本固有種で、太平洋側では神奈川県以北、日本海側では新潟県以北の本州に生息し、本県は太平洋側の北限にあたります。日本各地の生息地で個体数が激減し、ごく近い将来に絶滅する可能性が極めて高い種として、いわてレッドデータブックでＡランクに、環境省でも絶滅危惧ⅠＡ類に指定されています。本県では花巻市矢沢地区でのみ生息が確認されています。

【写真７】ゼニタナゴ
（提供：伊豆沼・内沼環境保全財団　藤本泰文）

展示解説会

当館学芸員が展示の見どころをご案内いたします
10月５日(日)、11月16日(日)
各回とも14:30～15:30
（当日受付　入館料が必要です）

■活動レポート

仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設の設置

首席専門学芸員　赤沼 英男（文化財科学部門）

1　仮設作業施設の設置

多くの尊い生命と財産を一瞬にして奪った東日本大震災発生から3年5ヶ月余りが経過しました。岩手県立博物館(以下、当館)では、平成23年4月2日から今日に至るまで、様々な機関と連携し、岩手県太平洋沿岸の被災文化施設から救出された文化財、自然史標本等(以下、被災資料)の再生に努めてきました。平成26年6月末現在当館には、安定化処理または抜本修復が完了した、7万点を超える資料が保管されています。

被災資料の再生を進める一方、平成25年度からは企画展をはじめとする博物館活動を震災前の状態に復しました。通常業務を行いつつ、被災資料の処理を進めるため、作業場所そして処理が完了した資料の保管場所確保が急務となりました。

そこで膨大な被災資料の処理を当館に依頼している陸前高田市教育委員会と協議し、文化庁が準備した被災ミュージアム再興事業を活用して、同市立博物館が所管する被災資料を処置するための、仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設を、当館敷地内に設置しました。平成26年5月1日以降その施設で紙を素材とする文化財の処理を進めています。

2　施設内での処理作業

海水損した資料にはヘドロや土砂、様々な生活物質が固着していて、腐朽による異臭も発生していました。固着物質を除去し、長期に渡り安定的に保管可能な状態にするためには、資料に生息する細菌や真菌(カビ)を殺滅し、海水に含まれていた塩分や、資料に固着した様々な物質を除去する、安定化処理が不可欠ですが、わが国はもとより、国際的にみても海水損資料の安定化処理は未経験です。

そこで、文化財専門機関、文化財科学の研究者、文化財修復の専門家と意見交換を重ね、試行錯誤を繰り返しながら、水洗可能な古文書、書籍に関する安定化処理方法を構築しました。

写真１　被災書籍の脱塩処理

現在、安定化処理は21の工程で行われています。施設1階では処理前資料の写真撮影、洗浄のための前処理、洗浄、予備乾燥、予備凍結、小型資料の真空凍結乾燥、および処理後の写真撮影が行われています。加えて、安定化処理が完了した書籍の抜本修復と修復が完了した資料の写真撮影も実施されています。

2階では7月3日から書画をはじめとする美術品の安定化処理が、東京国立博物館、NPO法人日本文化財保存支援機構により開始されました。陸前高田市立博物館に収蔵されていた美術品は、平成23年5月中旬に救出され、同施設2階に保管されました。同年7月14日に岩手県盛岡市にある旧岩手県衛生研究所に移送され、そこで全国美術館会議により乾燥、くん蒸、除泥等の措置が施された後、岩手県立美術館で保管されてきました。

美術品を古文書同様、水に浸漬した場合、資料形状を著しく損なう恐れがあり危険です。そこで、書画については次のような手順で安定化処理が行われています。まず、不織布で挟んだ資料を、アルミシートを敷いた作業台の上に置き、その上から精製水を噴霧し資料に十分染み込ませます。次に、刷毛や不織布を使い本紙から水分を除去します。この操作を6回程度繰り返すことにより、排出された水に含まれる塩化物イオン濃度を水道水と同程度まで低減できることが確認されました。脱塩が完了した本紙を吸水紙で包み、加重をかけた2枚の合板の間に挟んでしわを伸ばしながら乾燥を進めます。書画に加え、現在、油画関係資料の安定化処理および抜本修復のための準備が進められています。

写真２　書画の脱塩処理

3　広域連携による情報発信

海水損した美術品の安定化処理および抜本修復を、外部機関との広域連携により被災県で実施するという試みは、今回が初めてです。この方法によるメリットとして、①被災地の方々に被災資料再生の過程を見ていただき、活動に対する理解を深めていただく、②処理の過程で得られる様々な情報を集約し、被災地が長い歴史の中で果たしてきた役割を再認識することができる、③被災地の文化活動再生に寄与し、被災地の復興に貢献する、④国内外で懸念される類似の大規模自然災害発生時に適応可能な、被災文化財救出と再生のマニュアル整備に貢献できる、などが挙げられます。

当館では仮説保存修復施設を基軸に展開される被災資料再生の経過を、今後も他機関と連携し様々な形で情報発信していきたいと考えています。皆様には今後も暖かいご支援の程お願い致します。

■事業報告

第67回自然観察会「網張温泉　昆虫観察会」

開催日　平成26年6月29日（日）

開館以来、67回を数える自然観察会ですが、毎回、観察会場を探し出すのに苦労しています。今回は、ミズナラ・ダケカンバ・ブナを主体とする雫石町「網張温泉自然観察の森」で、網張ビジターセンターの全面的ご協力のもと、当館研究協力員の千葉武勝先生を講師に迎え、昆虫観察会を実施しました。しかし当日はあいにくの小雨で、受付後には音をたてての雨模様に一同がっかりしました。

参加者は全部で13名、遠くは横浜市からの参加もあり、平均年齢は43歳、最年少は7歳、最高齢は72歳でした。老若男女が、捕虫網を振り回しながら、昆虫を捕獲・観察後、放してやる昆虫版キャッチ＆リリースを行いました。雨降りの時には、どうしても昆虫が出現しにくいのですが、参加者の熱意の賜でしょうか？総計57種の昆虫が出現し、その都度、千葉先生からの解説をいただき、納得すると同時にその博識ぶりに一同、感嘆しました。「昆虫観察は自然観察・生態観察等、生物学の入り口にもあたり、自身が高齢になっても余暇を生涯楽しむことができる最高の遊び」と力説された千葉先生のまとめの言葉には、再度、感服した次第です。以下、出現した昆虫を坂内ビジターセンター解説員のリストから。

ガスがかかった草地で観察会

岩手県立博物館第67回自然観察会（平成26年6月29日（日）実施）
網張の森昆虫観察会にて観察した生きもの一覧

◆昆虫（種確認）
シワクシケアリ（アリ科）、アワフキムシの一種（幼虫）（アワフキムシ上科）、
ハイイロビロウドコガネ（コガネムシ科）、マルムネジョウカイ（ジョウカイボン科）、
リンゴビゲボソゾウムシ（ゾウムシ科）、ベッコウヒラタシデムシ（シデムシ科）、
ヤマトデオキノコムシ（デオキノコムシ科）、キイチゴトゲサルゾウムシ（ゾウムシ科）、
ヒメヤママユ（幼虫）（ヤママユガ科）、マイマイガ（幼虫）（ドクガ科）、
ヤガの仲間（幼虫）（ヤガ科）、シャクガの仲間（幼虫）（シャクガ科）、
マダラクキカシクシゾウムシ（ゾウムシ科）、オドリバエの仲間（オドリバエ科）、
アカハラコマダラヒトリ（ヒトリガ科）、クロウヒゲナガゾウムシ（ヒゲナガゾウムシ科）、
ベニボタルの仲間（ホタル科）、サドリバエの仲間（サドリバエ科）、
セセリチョウの蛹（セセリチョウ科）、ツバメガの仲間（ツバメガ科）、
ミヤマクワガタ（クワガタムシ科）、アオカメノコハムシ（ハムシ科）、
ナガバヒメハナカミキリ（カミキリムシ科）、クシコメツキの仲間（コメツキムシ科）、
ハイイロヒョウタンゾウムシ（ゾウムシ科）、ヒメギス（幼虫）（キリギリス科）、
モンキシロシャチホコ（シャチホコガ科）、ナミシャクの仲間（シャクガ科）、
クワキヨコバイの一種（ヨコバイ科）、シダヨコバイ（ヨコバイ科）、
ブチヒメヘリカメムシ（ヒメヘリカメムシ科）、ヨツボシナガツツハムシ（ハムシ科）
ヒメアシナガコガネ（コガネムシ科）、ハネナガフキバッタ（幼虫）（バッタ科）、
トビイロツノゼミ（ツノゼミ科）、モンキチョウ（シロチョウ科）、
オオモクメシャチホコ（幼虫）（シャチホコガ科）、キバネシリアゲ（シリアゲムシ科）、
ウラギンヒョウモン（タテハチョウ科）、ヒメウラナミジャノメ（タテハチョウ科）、
ヒトリガ（幼虫）（ヒトリガ科）、ヤマトスジグロチョウ（シロチョウ科）、
ツトガの仲間（ツトガ科）、オオトビモンシャチホコ（幼虫）（シャチホコガ科）、
ヒゲナガハバチ（ハバチ科）、バラルリツツハムシ（ハムシ科）、
アカガネサルハムシ（ハムシ科）、クチキムシの一種（クチキムシ科）、
アオハムシダマシ（ハムシダマシ科）、ダビドサナエ（サナエトンボ科）、
アキアカネ（トンボ科）、ナキイナゴ（バッタ科）、
クロマドボタル（ホタル科）、ジョウカイボン（ジョウカイボン科）、
アオジョウカイ（ジョウカイボン科）、エゾハルゼミ（鳴き声）（セミ科）
シマアオカスミカメ（カスミカメムシ科）

以上57種
（この他のガについては、別途、三井さんより提供予定）

◆その他
ヤマビル、ホトトギス、カッコウ、アカハラ、キセルガイの仲間

（記録：網張ビジターセンター　坂内）

（学芸部長　藤井忠志）

■事業報告

第67回地質観察会「一戸町の根反川沿いの珪化木地帯を歩く」

開催日　平成26年7月6日(日)

一戸町の東部および東南部一帯は新第三紀の珪化木産出地帯として古くから知られ、根反地域では民家の庭などで白っぽい～暗灰色の珪化木を見かけることがあります。この地域は、今から約1700万年前に森林地帯でしたが、周辺の火山から噴出した物を含んだ火山泥流に一気に覆われ、珪化木ができたと考えられます。今回の地質観察会は、地元の研究者である川守田先生や小森先生らとともに調査研究をされた杉山了三先生（現岩手県立盛岡第三高等学校講師）に講師をお願いしました。観察点は「根反の大珪化木」「根反川支流の小さな沢」「根反川上流域」の3ヶ所です。右上の写真は、国指定天然記念物の「根反の大珪化木」（昭和11年12月16日指定）前で、参加者が見つけた珪化木礫の組織構造や良質な珪化木の見分け方などを説明している様子です。この後、根反川流域では約20本の珪化木を観察しました。午後からは御所野縄文公園で、珪化木製の矢じりが出土している御所野遺跡について、ボランティアガイドの方から説明していただきました。晴天に恵まれ、暑い一日となりましたが、参加者は大昔の森林地帯を想像しながら楽しい一日を過ごしたと思います。

旧根反小学校の珪化木製の門柱

珪化木礫を説明する杉山先生

岩手県内には多くの地質素材があります。これからも県内の地質情報を県民に発信できるように調査研究を続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、観察しやすい環境を整えていただきました御所野縄文博物館の方々や地域住民の方に心から御礼申し上げます。

（学芸第二課長　吉田 充）

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈2014.9.1～2014.12.31〉

おしらせ

●資料整理のため休館
資料整理のため9月1日(月)から9月10日(水)まで休館します。
●年末年始休館
年末年始は12月29日(月)から1月3日(土)まで休館します。
●敬老の日　65歳以上入館無料
9月15日(月・敬老の日)は65歳以上の方は無料で入館できます。
●文化の日　入館無料
11月3日(月・文化の日)は無料で入館できます。

展覧会

■テーマ展　新指定文化財展2010-2014
10月4日(土)～11月24日(月・祝)　特別展示室
平成22年4月から平成26年6月までの間に国や岩手県から指定等を受けた文化財40件を一堂に紹介します。
■展示解説会　14:30～15:30　特別展示室　要入館料
10月5日(日)、11月16日(日)

■テーマ展　漆絵のデザイン～浄法寺塗菓子盆の魅力～
12月20日(土)～平成27年2月22日(日)　特別展示室
浄法寺塗の菓子盆はふだん使いの簡素な漆器ですが、漆絵にはさまざまな種類があり、独特の魅力があります。
※くわしくは次号でご紹介します。

移動展

●岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化･芸術が集うとき in 野田村」
会場：野田村体育館
10月30日(木)～11月2日(日)
野田村で移動展を開催し、岩手県の自然や文化、歴史についての理解を深めていただく機会を創出します。埋蔵文化財センターが実施する「埋蔵文化財展」との合同展です。
●展示解説会
11月2日(日)　時間未定

観察会

◆第68回自然観察会　シカに食べられる森
9月27日(土)　8:00～17:00　盛岡発着（住田町ほか）
増えたニホンジカが生態系に与えている影響を現地で観察します。滝観洞見学つき。
講師：鈴木まほろ（当館学芸員）ほか
定員：20名（小学生以上）
参加費：約3,000円（バス代・傷害保険料等）
申込方法：8月20日(水)から電子メール68shizen@iwapmus.jpまたはハガキで先着順に受付。詳細はお問合せください。

◆第68回地質観察会　ペルム紀の陸前高田市の海の生物を観る
10月5日(日)　10:00～15:00　現地集合･解散（陸前高田市飯森）
陸前高田市矢作町でペルム紀の地層を観察し、露頭から産出する化石の採集を行います。
講師：永広昌之氏（東北大学総合学術博物館協力研究員）
定員：20名程度（小学校高学年以上）
参加費：100円（傷害保険料等）
申込方法：9月11日(木)から電子メール g68imozawa@iwapmus.jpまたは往復ハガキで先着順に受付。詳細はお問合せください。

文化講演会

11月3日(月・祝)　13:30～15:00　当日受付　聴講無料
「江戸の大小暦（仮）」
講師：岩崎均史氏（練馬区立石神井公園ふるさと文化館長）
江戸で流行した大小暦の判じ絵の魅力をわかりやすく解説します。あわせて天明三年田山暦（味噌玉）が展示され、南部絵暦の判じ絵についても考えます。

県博日曜講座

第2・第4日曜日　13:30～15:00　当日受付　聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

9月14日	「絵図にみる岩手山」	齋藤里香（当館学芸員）
9月28日	「増えるニホンジカの脅威」	鈴木まほろ（当館学芸員）
10月12日	「12世紀平泉の庭園遺構」	鎌田 勉（当館学芸第三課長）
10月26日	「芭蕉がみた平泉と北上山地」	蟹澤聰史氏（東北大学名誉教授）
11月 9日	「山車についての日曜講座」	山屋賢一（当館学芸員）
11月23日	「近代以降の釜石鉱山」	笠原雅史（当館学芸員）
12月14日	「砂鉄の中の鉱物」	吉田 充（当館学芸第二課長）
12月28日	「三陸の貝塚」	八木勝枝（当館学芸員）

博物館まつり

●第6回岩手県立博物館まつり
9月23日(火・祝)　9:30～16:00　芝生広場ほか　小学生以下対象
当日受付　一部定員あり　参加無料
さまざまなコーナーに参加して、博物館をもっと好きになろう!
勾玉づくり、化石のレプリカづくり、石臼ひき、昔の遊びなどの体験コーナー、臼澤みさきさんのミニコンサートやアニメシアターもあります。

週末の催し

◆ミュージアムシアター
毎月第１土曜日　13:30～15:00　講堂　当日受付　視聴無料
10月、11月は一般向け、12月は子供向けの作品を上映します。
10月4日　20世紀の日本特集　一般向け
よみがえる100年前の世界　カーンが見たニッポン（実録／50分）
ヒロシマの記憶 幻の原爆フィルムで歩く広島（実録／35分）
11月1日　文化の日記念特集　一般向け
若くして非業の死を遂げた大津皇子を主人公に描いた折口信夫原作・川本喜八郎監督の人形アニメ「死者の書」を上映します。
ひさかたの天二上（実録／14分）、死者の書（人形アニメ／70分）
12月6日　アニメシアター　幼児～小学生向け
ポウさんの雪だるま（8分）、ミッキーマウスの楽しい冬・ミッキーマウスとゆかいな仲間たち（各10分）、森のトントたち クリスマス・クリスマス（25分）、十二支のはじまり（10分）、年神様とお正月（10分）

◆チャレンジ！はくぶつかん
毎月第2・第3土曜、日曜、祝日　小学生向け　随時受付
チャレンジ！マークをさがして はくぶつかんをたんけん！

9月	13日・14日・15日・20日・21日	テーマ：空
10月	11日・12日・13日・18日・19日	テーマ：石
11月	8日・ 9日・15日・16日	テーマ：指
12月	13日・14日・20日・21日	テーマ：走る

◆たいけん教室～みんなでためそう～（予約制）
毎週日曜日　13:00～14:30　幼児・小学生20名程度　参加無料
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間（9:30～16:30、休館日を除く）に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。

9月	10月
（7日 お休み）	5日 こはくの玉づくり
14日 竹トンボ	12日 からくり刀おもちゃ
21日 偏光フィルターの万華鏡	19日 石から絵の具をつくろう
28日 スライムであそぼう	26日 葉っぱのカラフルカード
11月	**12月**
2日 土偶づくり	7日 松ぼっくりのXmasツリー
9日 光るバッジづくり	14日 いいさかまき先生の ごんげんさまのカスタネット
16日 化石のレプリカづくり	21日 かんたん門松づくり
23日 ほのぼのあかり	28日 まゆで干支（未）づくり
30日 松ぼっくりのXmasツリー	

定時解説

平日～土曜日　13:30～14:30　／　日曜日　10:30～11:30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員がご質問や解説のご希望におこたえしています。

利用のご案内

■開館時間　9:30～16:30（入館は16:00まで）
■休 館 日　月曜日（月曜が休日の場合は開館、翌平日休館）
資料整理日（9月1日～10日）
年末年始（12月29日～1月3日）
■入 館 料　一般310（140)円・学生140（70)円・高校生以下無料
（　)内は20名以上の団体割引料金
9月15日（月・敬老の日)は65歳以上無料
11月3日（月・文化の日）は無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより
第142号
平成26年9月1日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102　盛岡市上田字松屋敷34
Tel.(019)661-2831 / Fax.(019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023　盛岡市内丸13-1
Tel.(019)654-2235 / Fax.(019)625-3595